草苑保育専門学校 2023年度 教育課程編成委員会 第1回 議事録

日　時：2023年11月7日(火)15:00～17:00
場　所：草苑保育専門学校 大会議室
出席者：森田 陽子　　日本女子体育大学体育学部子ども運動学科教授／日本幼児体育学会理事　　①
　　森 文稔　　社会福祉法人さきたま会　薫る風・上原こども園　総括責任　　③
　　阿江 美知代　　教育課程編成責任者／草苑保育専門学校校長／草苑学園理事
　　柳内 えり　　草苑学園理事・総合企画室長
　　竹原 有基　　草苑保育専門学校 教務部長
　　浅井 忍　　草苑保育専門学校 専任講師／就職支援センター長
　　徳田 多佳子　　草苑保育専門学校講師　　②
※企業等委員種別：①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
司　会：竹原
記録者：浅井

1. 議事と議論の要旨

（1）討議のテーマについて

2022年11月の文科省実地視察結果を踏まえて、前回の教育課程編成委員会において、定員の厳格化を念頭に置いた保育士資格のみが取得できるコースについての検討が行われた。それを受けて、本校では2025年度に向けた学科の改組について準備を進めている。今回の教育課程編成委員会では、保育士養成コースのあり方について議論を行った。

（2）学校改組と教育プログラムの差別化について

本校では、従来の幼稚園教員・保育士養成科（定員150名）を「幼稚園教諭・保育士養成コース（定員50名)」「保育士養成コース（定員100名)」の2コースに分け、定員と取得できる免許状・資格の関係がわかりやすい形への改組を2025年度から実施する予定。それについて、以下のような意見が挙がった。

・学校経営の観点から学科の改組は必要だが、転コースのような制度を整え、学生が両方の資格を取得できる選択肢を提供できるといい。
・出口としての資格取得人数と就職先の割合が合っていれば、転コース等を行っても説明できるのではないか。
・人気のある保育士資格のみが取得できる競合校との差別化のため、前回の会議でも話題に上がった選択制の保育ゼミ等を通じて、受験生に魅力を感じさせ、学生にやる気を出させることが重要。
・徹底的に差別化を図り、魅力ある教育プログラムを作ることを考える必要がある。
・保育士コースは人数によっては、東京都の委託訓練生と合わせたクラスになることも想定しておかなければならない。

（3）「保育ゼミ」の開講

改組に伴い、2025 年度から「保育ゼミ」の授業を開講予定。少人数制を採り、8～10 のゼミから学生に選択させる形で、現在専任講師が内容を検討している。また、2024 年度にテストケースとしてゼミ形式の授業を開講する予定。委員からは、学生の学びの質を高め、競合校との差別化を図るための具体的な戦略や方法論について、以下のような意見が挙がった。

・学生のゼミ選択：講師の名前は出さず、内容を見て学生が希望（例えば第 3 希望まで）を出す形がいいのではないか。希望が重なった場合等は、教務部など事務方が振り分ける形が望ましい。
・ゼミの人数と質:各ゼミの学生数は 10 人以下が理想的。ゼミの方が人気で学生の出席率も上がるかもしれない。ゼミの担当講師が担任となり、就職まで面倒を見る形もある。
・科目としての名称は「保育基礎ゼミⅠ」「保育基礎ゼミⅡ」等の、専門性を表すわかりやすいものがいい。
・卒論が必須ではない学校も増えた。保育ゼミの最終課題をその代替にするのもいいのではないか(卒園講演、オペレッタ等)。
・大学で行っている例として、子どもの運動教室や地域還元として連携をとっている園の運動会の手伝い等を行っていることもある。週 1 回で、年間 30 回。3・4 年生でゼミ変更なしが基本。
・他大学が行っている、フードプロジェクト等、学びは楽しいと思えるような内容にしたい。また、資格取得に直結できるようなものもいい。
・専門学校でも、おもちゃ、保育と食育、児童福祉、グローバルなどを題材にしたゼミを開講している例もある。
・学生との連絡方法については、ゼミで作成しているグループ LINE が主流。

（3）70 周年記念式典

本校は、2024 年度で 70 周年を迎える。6 月 15 日（土）に記念式典を開催予定。

2. 次回予定：3 月 5 日(火)15:00～17:00

場所：草苑保育専門学校大会議室

3. 閉会